



くまがみね

学校だより
2022 (令和4) 年5月2日
福山市立熊野小学校

子ども読書の日

4月23日は、子ども読書の日でした。本校では、図書ボランティアの小山さんより、「ウクライナとロシア」に関する絵本や絵画を紹介していただきました。Meetで、4～6年生の各教室とつないで行いました。

始めに、よく知られている絵本「てぶくろ」は、ウクライナの民話であることを紹介していただきました。(1～3年生は、後日、担任が読み聞かせをします。)

次に、絵本「セルコ」の読み聞かせをしていただきました。この絵本は、犬とオオカミの友情物語ですが、ユーモアたっぷりで昔話の宝庫といわれるウクライナの文化のすばらしさを味わえる一冊です。また、福山美術館が所有している「青い花瓶」は、マルク・シャガール（ロシア出身 現ベラルーシ）の絵画であり、福山市の財産であることを教えてくださいました。

最後に、「びんぼうこびと」（ウクライナの昔話）を読み聞かせしていただきました。子どもたちは、ニュース等でウクライナとロシアについて見聞きしており、子ども読書の日を通して、思いを馳せる時間となりました。



[校長室と各教室を Meet で繋ぎました]



[教室のスクリーンに映し出されます]

6年生 総合的な学習の時間

6年生は、総合的な学習の時間に、熊野の歴史について学んでいます。

4月27日には、関西より講談師の旭堂みなみさんをお招きして、講談について学習しました。

「講談とは、テレビや携帯のない時代に、どこで、どんなことがあったかを言葉で伝える、今でいうワイドショーのようなもの」と、分かりやすい説明をしていただきました。

その後、実際に、楠木正成の幼少期についての講談を聞かせていただいたり、一緒に「宇治川の一番渡り」を読んだりしました。

また、釈台と呼ばれる小さな机の前に座り、張り扇で釈台を叩いて調子をとることを体験させていただきました。

2時間の授業があつという間に感じられる時間でした。

児童のお礼のあいさつでは、「講談師さんから学んだことを、これからの学習に生かしていきたいです。」とありました。熊野の歴史を学ぶなかで、講談を体験したことをどのように生かしていくかを子どもたちと話し合い、学習を作っていく予定です。

